

福祉建設経済委員会現地視察報告書

現地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和7年7月10日

光市議会議長 森 戸 芳 史 様

光市議会福祉建設経済委員会

委員長 田 邊 学

副委員長 西 村 慎太郎

委 員 井 垣 伸 子

委 員 大 田 敏 司

委 員 小 林 隆 司（副議長）

委 員 清 水 祐 希

委 員 田 中 陽 三

委 員 新 見 浩 明

委 員 萬 谷 竹 彦

随 行 前 田 紀 子

記

- 1 現地視察等年月日 令和7年5月19日（月）
- 2 視察先 山口県宇部市
- 3 調査結果等 別紙のとおり

調査結果

日 時	令和 7 年 5 月 19 日（月）13：00～14：30	
調 査 市 等	山口県宇部市	
調 査 事 項	移住定住に係る取組について	
説 明 者	総合政策部 移住定住推進課 課長 久保恵美子 副課長 山下進 係長 古谷次郎	

<宇部市の概要>

下関市、山口市に次いで県内では 3 番目の人口規模（人口約 16 万人）であり、北部は豊かな自然に包まれた「うべの里」が広がり、南側は商業地がにぎわいをつくっている。都市の利便性を利用しながら自然に寄り添う田舎暮らしが実現できるのも魅力となっており、2020 年版「住みたい田舎」ベストランキング（人口 10 万人以上の大きなまち）総合部門で第 1 位を獲得した。

<内容>

1 宇部市移住定住ポータルサイトについて

平成 28 年に開設し、以降見直しを掛けながら現在の形となった。2 年前に刷新してテーマカラーを赤色に統一することやスマートフォンからのアクセスでも見やすいように改修した。このポータルサイトには、補助金や助成金のメニュー（市単独や国県のものも含む）や空き家バンク・子育て支援施策等々が視覚的に分かりやすく移住を検討する人にとって親切な設計となっている。

ポータルサイト URL：<https://ube-iju.jp/>

2 お試し住宅について

（1）制度の目的

宇部市外在住者が移住を検討する際、本市の生活環境や居住利便性を実体験できる機会を提供することを目的として、お試し居住制度を設置している。

（2）住宅の設備

当該住宅には、冷蔵庫・洗濯機等の主要家電のほか、皿・箸・調理器具などのキッチン用品を完備している。入居者は日常生活に必要な最低限の身の回り品を携行するのみで、即日から宇部市での暮らしを体験できる環境となっている。

（3）利用料金

宿泊料金は、1 軒あたり 1 週間につき 14,300 円（税込）である。

（4）利用期間





宿泊期間は1週間以上4週間以内と定めている。

(5) 申込対象者

宇部市外在住で、宇部市への移住を具体的に検討中の個人または世帯を対象とする。

3 オーダーメイドツアーについて

(1) 制度目的

本制度は、宇部市への移住を検討する市外在住者に対し、実地体験を通じて本市の魅力・生活環境を理解させ、移住後の暮らしを具体的にイメージさせることを目的として実施している。

(2) ツアー内容

参加者の関心に応じて行程を組む「オーダーメイド」方式を採用している。

標準行程は1泊2日とし、地元住民との交流、空き家見学、地元スーパーでの買い物、祭り・イベント参加など、生活に直結する体験を中心とする。

先輩移住者・地元住民との意見交換を通じ、仕事・住宅・子育て環境など個別課題の解決を図る。

オンライン版ツアーも用意し、来訪が難しい希望者に対して遠隔で案内する。

(3) 費用負担

ツアーガイドは無料である。交通費は一部補助するが、集合場所までの往復分は参加者負担とする。具体補助額は個別に問い合わせを要する。

4 うべ暮らし交流会

移住された方を中心に、年5回程度移住者間の交流イベントを行っている。

<質問>

Q1. 他所管との連携はどのように取られているか。

A1. うべ移住定住サポートセンター（移住定住推進課担当職員）が相談を一元的に受け付け、相談内容〔仕事・住まい・子育て・介護・暮らし等〕に応じて関係部署と調整しながら対応している。

Q2. 所管の分析として、移住者はどのような理由で宇部市を選択したと考えるか。

A2. 山口宇部空港をはじめとする交通アクセスの利便性、北部の自然と南部の都市機能のバランス、地震が少なく温暖な気候など「コンパクトで暮らしやすい点」が評価されたとみられる。

Q3. 移住定住に関する予算と移住者数の関係はあるか。

A3. 直近3カ年の移住定住推進事業予算は〈R7：28,824千円／R6：24,414千円／R5：26,609千円〉。相談・申請件数は増加する一方、支援金等の予算は不足気味である。ワンストップ相談体制や継続的な情報発信により認知度が高まり、移住検討者・移住者増につながったと認識しており、情報発信やプロモーションにも一定の取組と予算が必要である。

Q4. サイトの開設費用および年間維持費用はいくらか。

A4. 開設費用は 100～200 万円程度。維持費は年約 5 万円である。

Q5. サイト運営開始後、移住相談件数は変化したか。

A5. 令和元年度は約 2,000 件→現在は約 1,000 件。サイト情報充実により閲覧のみで解決する例が増えたと考えられる。

Q6. うべ移住定住サポートセンターの担当職員数は。

A6. 移住定住係 2 名（係長 1、主任 1）。

Q7. サイトへのアクセス数はどれくらいか。

A7. 令和 6 年度：58,909 回（過去 5 年平均：47,414 回）。

Q8. 力を入れているターゲット層は。

A8. 子育て世帯・若年層に加え、山口宇部空港を生かした東京圏テレワーカーや二拠点生活検討者を想定。福岡圏も重視している。

Q9. 空き家利活用の取組と課題は。

A9. R6 実績：物件登録 16 件・成約 12 件・移住 7 件 14 人。北部中山間地域では放置空き家が散見、南部市街地では防犯上の配慮から掲載に慎重。改修補助制度は未設置。

Q10. 移住希望者への就業支援・企業誘致との連携状況は。

A10. ハローワークや山口しごとセンター紹介による個別相談を実施。企業誘致は直接連携はないが、サテライトオフィス誘致実績等の情報共有を行っている。

Q11. サイト以外の情報発信・広報戦略は。

A11. 移住フェア出展、Web 広告、シティプロモーション事業やふるさと納税事業と連携した情報発信を行っている。

Q12. 移住者交流イベントの開催回数・参加者数・費用は。

A12. 委託料年間約 50 万円で年 5～6 回開催。参加実績：R4＝7 回 109 人、R5＝6 回 71 人、R6＝5 回 87 人。

<所感>

【田邊 学】

山口県宇部市「宇部移住計画」、目を引くのが赤を基調とした外部リンクである。新規の更新も常にされ移住定住施策を、庁舎全体で力を入れていた。特徴として暮らしやすさと自然があり、東京からのアクセス、医療環境、教育環境、居住費、ショッピング、地震災害の少なさ等により充実した安心に移住定住出来ることを都市部に発信していた。移住定住をバックアップする助成金や補助金については、光市とあまり変わらないが、庁舎全体での移住定住施策にどれだけ力を入れるかによって、移住定住希望者が移住定住先を選んでいただくことが出来るかである。地域間競争になってはおりますが、地方自治という制度上においては、光市も危機感を持ち移住定住施策に力を入れる事が地方創生の目指すところである。最後に、地方公共団体は、住民の福祉の増進を図る事を基本とし

て、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担わなければならない。

【西村 慎太郎】

山口県内で一番移住者の多い市である宇部市であるが、やはり空港があり東京圏へのアクセスが良いことなどが光市との大きな違いである。その上で、特徴のある施策も多くあったがプロモーションにおいては光市と力の入れ方に違いを感じた。宇部移住計画と題して、エヴァンゲリオンとも関連も想起させるものとなっており、ホームページの作りについては専門業者に委託して基調カラーを赤にして刷新したとのこと補助金などの情報もビジュアル的にわかりやすく整理されておりわかりやすい。食品のプロモーションは「ぺこぱ」が採用されており中を見てみようと思うインパクトがある。光市は観光大使として「ぺこぱ」を採用しているはずであるがそういったものの活用があまり印象としてない。自治体間の競争が激化していく中で置いて行かれている印象を受けた。今回の視察を踏まえて議員としてもっとプロモーションについて訴えていく必要性を改めて感じた。

【井垣 伸子】

宇部市の移住定住対応について、勝因の主なものは、次の6点。

1. 山口宇部空港がある
2. 移住定住サポートを一元化している
3. 宇部移住計画ポータルサイトを準備している
4. 移住定住プロモーション活動を大阪や東京などで年に6回行っている
5. 移住者交流会「うべ暮らし交流会」を年に5、6回開催している
6. 文化的背景として、「彫刻のまち」を明確に打ち出している

特に、6については、1967年に閉山になるまで続いた炭鉱のまちとしての背景があり、その暗いイメージを払拭しようと、1961年からUBEビエンナーレを開催し、野外彫刻を公募した。アートによりまちを活性化しようとするこの動きは、直島をアートで活性化し始める以前のもので、注目に値する。UBEビエンナーレは、2024年「最も長く続いている野外彫刻展」として、ギネス世界記録に認定された。現在、市内には200点以上の野外彫刻が展示されており、街中が美術館と言われ、市の文化度を上げていると思われる。

【大田 敏司】

令和7年5月19日山口県宇部市に「宇部移住計画」について視察をしました。ポータルサイト「宇部移住計画」の運営、SNSによる情報発信、各種フェア・セミナー出店などで宣伝をされておられ移住に関心を持たれる様にされておられました。又お試し居住制度で（1週間から4週間）のお試し暮らしをされ、一戸建て住宅提供され、家賃1週間ごとで¥14,300円と低価格で提供され、宇部の日常体験住まいなどを提供され実施さ

れておられました。さらに UIJ ターン奨励金や、若者・子育て世代誘致家賃助成金のせて率や、移住支援事業や移住支援事業で県都の連携も実施されておられ、積極的に移住定住を支援されておられました。

我が光市も積極的に移住・定住に向けて活発に支援事業を立ち上げて促進をお願いしたいものです。

【小林 隆司】

宇部移住計画の各種施策について理解を深めた。宇部移住計画のポータルサイトでは、移住検討者が求める情報が一元管理され、移住検討者の属性に応じた戦略が組まれていたことなどを踏まえ、限られた予算を効率、かつ効果的に活用している印象を受けた。特に移住検討者を対象としたオーダーメイドツアーは、事前にヒアリングを行い、ニーズに応じたツアーが組まれており、生活に密接した体験ができていると感じた。また、うべ暮らし交流会では、定期的に職員や移住者相互のコミュニケーションが図られていた。このように、移住のスタートアップから移住者の定着まで、ステージに応じたきめ細やかなフォロー体制が確立されていることが、宇部市の移住者が増加している要因の一つと感じた。本市においても、このような取組を参考にし、移住検討者のニーズをよりの確に把握する仕組みを検討すべきと考えた。

【清水 祐希】

宇部市は山口県内で一番移住者が多い自治体。昨年は県外から 1,287 人、県内含めると 2,052 人（転勤就学は含まれない）の移住者数です。強みとしては、空港があること（宇部⇄羽田 10 往復）や、医師の数が多いこと（人口 1 万人あたりの医師の人数県内 1 位）などがあり、参考になった取り組みとしては、お試し住宅、オーダーメイドツアーなどがあった。お試し住宅は 1 週間 14,300 円の賃料で、昨年実績は 16 件 37 名が利用。29 週間利用され、利用率は 40%。昨年 10 月から新たなお試し住宅を開設している。オーダーメイドツアーは職員が個別に希望者をまち案内し、昨年は 12 回（25 名）が利用し、3 名が移住している。このあたりの実際にまちに来て、トライアルで住んでもらったり、まちの魅力を案内する取り組みは非常に参考になった。

そして、そこまでたどり着くための取り組みとして、サイトのデザインや移住定住サイトが非常にわかりやすい作りになっているのが素晴らしいと思った。

【田中 陽三】

印象に残った事業、共感した事業は次の 5 つです。①プロモーション活動としてインパクトのあるポータルサイト「宇部移住計画」の運営と移住を考えている人に届くネット広告の実施②アパートの一室を借り上げたお試し居住③職員が対応する移住検討者へのオーダーメイドツアー④住宅情報バンクへの登録数の多さ⑤地域おこし協力隊の OG を中

心に企画運営する移住者交流会です。まずは、宇部市に興味を持っていただく事、移住を考えている人に寄り添う事、交流会で移住者がつながり、定住や新しいつながりを生み、さらに広がっていくことが見えました。宇部空港が近い事や医療機関が充実している強みはありますが、話題にもなっている移住者数のカウントにもなるアンケートを工夫して移住者の声をしっかりと集めていることや回収率が高いことも行政の本気を感じました。

光市でも移住者交流会等を実施して声を集めるところから移住希望者に届くアイデアが生まれるのではなかろうか。

【新見 浩明】

宇部市では、移住定住に関する業務について、「うべ移住定住サポートセンター」が一元管理する体制を整えています。移住についてのターゲット層を若者や子育て世帯に定めています。それらの世代は移住検討の際にインターネットを活用しているため、インターネット上の行政窓口である「宇部移住計画」というサイトの運営に注力していました。また、空き家バンクの活用や若者・子育て世帯への住宅支援、移住者と地域住民との交流を促進する体制づくりなど、多面的で実効性のある取り組みが進められていました。特に印象的だったのは、行政だけでなく以前地域づくり協力隊として活躍された事業者との連携により、移住者が地域に溶け込みやすい環境が整備されていた点です。

今回の視察を通じて、本市においても地域の特性や強みを踏まえた上で、移住・定住施策の強化が必要なことを再認識しました。ここで得られた知見を今後の活動に活かしてまいります。

【萬谷 竹彦】

光市にとっても大きな課題であり、「宇部移住計画」なるものに、大変興味を持っていました。まず、目を引く赤い色のホームページ。これを見た人が、宇部市の本気を感じ取れるものになっているのではないかと思います。そして、宇部の魅力のPR、「過去90年間、震度5以上ゼロ」等、ある条件下での宇部市のPRがなかなかうまいと思いました。また、お試し移住やオーダーメイドツアー等の準備もされており、移住者数県内1位の実力を垣間見させて頂きました。

宇部空港等の地の利はあるにしても、光市でも取り入れるべき施策もあると感じましたし、これからも参考にしていきたいと思います。